

アジアの人と共に

北村豊氏（新生病院口
腔外科医長・上高井郡小
布施町＝昭23・12・5
生）

今日は私が生を受けた日であり、またこの原稿の締切り日でもある。医療タイムス社の原稿依頼で、初めて自分が年男であることを知った次第である。十二支をほんの四周ばかり回ろうとしている若造ではあるが、一倍体力のあったハズの私も折々に確実にその衰えを感じさせられる。「年男（筆者改変）金と力はなかりけり」は、エージングと子供の成長で入用が多くなっている私にびっぴりの言葉である。

二年前から国際医療協力を一つの柱とする新生

病院で私を受け入れていただいた。青年の三年間をマレーシアの先住民病院で過ごした私にとって、医療をはじめとする国際協力はライフワークの一つであり、私の心と人生を広く豊かに育んでくれた。小布施を中心とする地域住民と共に歩むのはもちろんであるが、年男の本年も歩みを止めず、アジアの人々と共に喜びや悲しみをわかちあいたいと考えている。